令和３年度　学校運営連絡協議会実施報告書

１　組織

⑴　都立農芸高等学校　学校運営連絡協議会（定時制課程）

⑵　事務局の構成　副校長、主幹教諭(教務主任兼務)＝事務局長　計２名

⑶　内部委員の構成

副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、農場主任　計６名

⑷　協議委員の構成

PTA 会長、PTA 副会長、近隣高齢者支援施設園長、保護司　本校薬剤師　近隣公共施設館長　計６名

２　令和３年度学校運営連絡協議会の概要

⑴　学校運営連絡協議会（第 1～3 回）の開催日時、出席者、内容、その他

ア　第１回　令和３年６月（書面開催）

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の報告、本校の現状と課題等説明、意見交換

イ　第２回　令和３年 10 月（書面開催）

これまでの教育活動に関する報告、外部委員からの教育活動に対する意見、学校評価アンケートの内容検討、協議

ウ　第３回　令和４年２月（書面開催）

これまでの教育活動に関する報告、アンケート結果の資料を送付、資料を見て外部委員からの教育活動に対する意見、学校評価の報告及び学校運営に関する提言

⑵　評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

ア　第１回　令和３年６月（書面開催）

学校評価の基本方針の検討、昨年度の学校評価結果の分析・考察、今年度の学校評価の実施に向けた検討

イ　第２回　令和３年 10 月（書面開催）

学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期等の検討

ウ　第３回　令和４年２月（書面開催）

アンケート集計結果の整理、分析・考察、文言の確認

３　学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

⑴　学校評価の観点

ア　相談的機能が充実しているか

イ　わかりやすい授業が行われているか

ウ　生徒の基礎学力は向上しているか

エ　学校のきまりを知っているか　また　守っているか

エ　学校情報はよく伝わっているか

オ　学校に対して満足しているか

カ　ライフワークバランスが取れているか

(2)　アンケート調査の実施時期・対象・規模

ア　１月　全校生徒対象　49 名（回収率 94%）

イ　１月　保護者全員対象　27 名（回収率 53%）　　ウ　１月　教職員 8 名（100%）

エ　地域　０

(3)　主な評価項目

ア　学校運営、学習活動、生徒指導、進路指導、地域の学校への期待等、いじめ、体罰、ライフワークバランス

イ　重点：「相談的機能」「わかりやすい授業と基礎学力の向上」「学校情報」「学校満足度」「子学校のきまり」

(4)　評価結果の概要

ア　相談的機能の充実

「教師に相談したことがある生徒」は「保護者が相談できる教師がいる」は 65%であった。

イ　わかりやすい授業と基礎学力の向上

「授業がわかりやすい」と思っている生徒は 90%であり、「わかりにくい」という否定的な回答は生徒全体の 10%である（昨年 5%）。保護者は、80%（昨年 65%）である。

また、全ての教師は、わかりやすい授業となるよう工夫している（100%）と答えている。

不登校生徒の増加、学力に課題がある生徒の増加等に教員、講師が生徒１人１人に対応して見て、楽しくわかる授業の実践を行うための授業改善が必要である。同時に多様な生徒に対応して特別な指導申請があった生徒に対して早期の対応が今後行う必要がある。通級を希望する保護者が出た場合現在の対応では難しいので徳部な支援や通級にたけた教員の育成が必要である。

ウ　基礎学力の向上

「生徒は基礎学力が向上した」と回答した者は 85%である。

教職員は 60%である。生徒は否定的な答えが 15%である。教職員との認識の差が縮まったが、教師はさらに ICT 活用等を行い、授業力の向上・授業改善が必要と言える。生徒は家庭学習を身に付け、予習復習を行う必要がある。また、家庭学習の定着のために宿題を出す必要がある。

エ　学校情報の発信

「学校の情報がよく伝わっている」と考えている生徒は、約 72%である。

学校情報の発信として HP、一斉メール等の伝言方法を行っているが一斉メールの登録者は 50%であるので緊急を要する事故等に対応するため改善する必要がある。なお、保護者向けのアンケート回収率は 53%で昨年度より低下した。。今後は 100%を目指す。

オ　満足度調査

生徒は、「本校に入学してよかった」と概ね感じている（93%、）。「子供を入学させてよかった」と感じている保護者 100%となっている。生徒の学校満足度は農場施設、先生とのかかわり、施設設備、給食の順となっている。保護者の満足度は日常の授業、補習補講、実験実習、農場の施

設の順となっている。今後、保護者との連携を強め、授業力向上による基礎学力の向上、１年生からの進路指導の充実と意識づけ、インターンシップ等の体験重視、進路カウンセリング、進路情報の提供の充実を行う必要がある。また、面接、特別支援の強化を行い生徒に安心感を与える学校を目指していく。

(5)　評価結果の分析・考察

学習面では、今年度自ら個別学習を希望する生徒に対して入試、資格取得を目的に始業前、放課後に実施し英検準２級を取り今後は授業前個別指導を充実し、希望する生徒の基礎学力の向上と進路に対応した指導とする。また、相談機能については教師への相談できる割合が低いことから、各学期に行う個別面談を工夫することや、卒業後の進路に対して１学年から目的意識をもたせ、進路指導の充実に努める必要がある。学校の情報発信については、ホームルームの指導に加え、ホームページやメール配信システム等を活用しているが、保護者に十分に伝わっていないことから一斉メールの登録を周知して100%となった。また、保護者からは地震等での学校の対応について質問が多いので学校で３日間待機とすると周知した。

その他として、特別支援を必要とする生徒が多くなってきているので、生徒理解と授業、研修を行い、介助できる環境と意識づくりが大切になってくる教育を行う。いじめは０である。　学校のきまりは100%守っている。今後このままの数値を守ってほしい。学校のきまりに対して理不尽なものはない。

４　学校運営連絡協議会の成果と課題（学校評価を含む）

(1)　学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

ア　「地域にとって期待される学校」「地域に愛される学校」を目標に、生徒を地域との交流活動に参加させて、社会人としての基礎的な力の育成を図るよう努めた。（点字図書館への寄せ植え寄贈や植栽並びに和太鼓演奏、日本点字図書館での点字カードと草花への贈呈・植栽等）

イ　学校情報は、ホームページの更新回数（45 回）などで、学校外へ積極的な発信をした。

(2)　学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

ア　基礎学力に課題のある生徒に対して、分かる授業を通して基礎学力の向上を図るとともに、始業前、放課後、長期休業中を利用した個別の指導や補講等を充実させること。また、楽しくてわかる授業改善に向けて、指導教諭の授業参加をはじめ、校内研修を実施し、授業力向上に取り組むこと。ICT 利用の授業を行いわかることを心掛ける。

イ　多くの生徒が将来についての目標が持てていないので、各教科、ホームルーム、進路講話を通じて１学年からのキャリア教育の充実を図り、インターンシップの実現が必要である。また、保護者から学校に入れてよかったと思われているが、進路に関して不満がある。

ウ　生徒の家庭状況、いじめ問題防止、命の大切さ、特別支援教育等の問題解決のために外部機関との組織的連携を図り、教育相談委員会等の充実を図ること。スクールカウンセラーの活用をより積極的に行い生徒、教員、保護者向けの講演を定期的に実施するなど、学校における相談機能を充実させた。今後は多様な生徒について多角的に対応する力と対応する先生の育成が必要である。

5　学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1)　学校運営

ア　本校の教育目標や学校経営方針、生徒の活動等について、新しくなった学校ホームページ、メール配信を積極的に更新し情報発信を行う。また、学校通信などで情報を発信してほしい。

イ　農場で生徒が栽培した野菜の販売、公共施設への提供は本校の特筆すべき特徴のひとつである。今後中学生、小学生と連携し力を入れ、地域の学校として認識してもらいたい。教科「人間と社会」における点字図書館への点字カード作成と草花の贈呈を継続することを軸に、さらにキャリア教育を充実させた内容にする必要がある。

(2)　相談的機能の充実

ア　特別な支援を必要とする生徒、不登校経験生徒の増加に伴い、家庭との密な連絡を重視し、面接週間を毎学期実施するとともに、スクールカウンセラーと電話連絡や教育相談センター等の相談機能について継続して充実させる。また、家庭との協力を行い毎年欠席率の数字は下がっているが、今後は出席率の上昇、欠席率の低下をもつと図ってほしい。

(3)　学習活動

ア　授業計画や評価方法を生徒、保護者に機会あるごとに説明を行うとともに、ホームページやメール配信システムを使い、定期考査の連絡や授業公開の案内をより積極的に行うことで、保護者及び外部の参観を増やす工夫をする。また、生徒自らテスト週間がわかるように対応する。

イ　習熟度別授業や少人数授業等、ICT 活用によるわかりやすい授業の展開、長期休業日等の補習補講などを充実させ生徒の基礎学力の向上を図る。

ウ　生徒による授業評価結果に基づき、授業力向上への校内研修や指導教諭等による研究授業への参加等についてより一層の充実を図る。

エ　特別な支援を必要とする生徒一人一人に対応して、学習指導方法、教育相談、補習等の組織的な充実を図る。

オ　新型コロナでの生徒のネット環境が悪く出来なかった。

(4)　進路指導　生徒不満足　10% 保護者は何を行っているかがわからないとの意見があった。

ア　進路講話や進路講演会の実施など、進路決定に向けての情報提供を 1 学年から計画的に行い、学年の実態に合わせた内容にするなど、進路意識の醸成を図る。

ウ　就職（見学時及び採用試験日の事前指導）や進学時の論作文、面接対策等を次年度以降も組織的に指導し、生徒の進路決定率 100％を目指した指導を継続する。

エ　「進路の手引き」を利用し、１学年から進路意識の改善を図る。

(5)　生活指導

ア　保護者との情報交換を密にし、問題行動への対応をより組織的に行い、特別指導 0 件とする。

イ　退学者 0 人とする指導を心掛けるとともに、より落ち着いた環境にする。

6　学校がよくなったと答えた協議委員の割合

(1)　協議委員人数　7 名

(2)　学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	0	0	0	0	3	0

7　職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

⑴　今年度における職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績なし。

⑵　入学式、文化祭、卒業式の参加実績なし

8　その他

⑴　保護者、地域アンケートの回収率を向上させる工夫をする必要がある。

⑵　学校評価精度をさらに向上させるため、保護者、地域の方々、協議委員の方への学校公開の機会を増やしていく。

⑶　学校開催を望む。現在では何をしているのかがわからない。